

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 13

クルーズご意見番“初代クルーズマスター 松浦睦夫”が語る

日本で建造された最大（当時）の客船として「ダイヤモンド・プリンセス」がデビューしたのは2004年（平成16年）2月です。環境規制が厳しいアラスカ水域での運航に配慮した排気・排水対策のため、ディーゼルとガスタービンを組み合わせた発電機、海に一切投棄しない廃物処理装置など、地球環境を配慮した設計で世界中から注目を集めると、建造された三菱重工長崎造船所にも近い、長崎市の松が枝ふ頭で行われた命名式に招待され参加してきました。プリンセス・クルーズの歴代命名者はダイアナ妃やサッチャー元首相をはじめ世界のセレブが多いのですが、今回は建造主である三菱重工業の代表取締役社長夫人、佃芳子さんが務めました。建造中の火災、約1000人の作業員全員が無事避難でき、怪我人ゼロの「不幸中の幸い」、納期の大幅遅れを取り返すために姉妹船「サファイア・プリンセス」を「ダイヤモンド・プリンセス」として差し替え、7ヶ月遅れの納入など、様々な出来事を乗り越えて迎えた日でした。晴れ舞台

日本で建造された最大（当時）の客

に相応しい良いお天気でした。

翌月3月13日からロサンゼルス発着7泊8日の处女航海「メキシカン・リビエラクルーズ」には、ゆたか俱楽部から130名様に参加いただきました。日本製の客船ということもあり、日本人客は船全体で2番目に多かったそうです。

メキシコのリゾート地3ヵ所をまわる1週間で、コースは小規模ですが、船は11万3000トンで乗客とクルー合わせて3000人以上を収容できる超大型の客船です。作家の阿川佐和子さん、女性優の檀ふみさんが雑誌「旅」の取材で乗ることになり、私も同行しました。

阿川さんは、現在も続く週刊文春の連載対談企画「あの人会いたい」1993年スタート）と、テレビ「ビートたけしのTVタックル」1998年スタート）で活躍。実は、出版社からの話では阿川さんだけだったのですが、檀さんも一緒にという話に変わりました。

クルーズ経験者の阿川さんは、まだ乗ったことがない檀さんと「今度一緒に乗るね。声かけてね」と約束していたそ

前半、独身という共通点が多く、プライベートの親交も深い2人。1999年（平成11年）には共著「ああ言えばこう食う」が講談社エッセイ賞を受賞しています。この2人のクルーズ旅行の体験レポート記事は面白くなる、と出版社は思ったのでしょうか。

「旅」は、日本の旅行情報誌として最古の歴史を持つ雑誌です。1924年（大正13年）に日本旅行文化協会から創刊された後、1943年（昭和18年）に休刊。終戦の翌年に日本交通公社で復刊され、2004年からは新潮社で刊行されることになりました。この雑誌は、俳優や作家による紀行文が多く掲載されているのが特徴です。

ゆたか俱楽部で2人分のクルーズ費用などを負担する代わりに、クルーズ旅行の募集チラシに登場してもらったり、寄港地ではお客様と一緒にバスに乗つてもらったり、船内では会員限定の講演会に参加してもらつたりなど、お客様サービスに協力していただきました。

阿川さんはサイン本を30冊ぐらいクイズの景品として提供してくれました。彼女が書く本は恋愛もの、特にご自分の見合い経験を生かしたものが多くあります。その時の会員向け船上講演会では、ご自身のお見合い回数についてクイズを出題されました。答えは「48回」。さすがの多さに、誰も当てること

ができませんでした。その中の2回ぐらいはうまくまとまりそうだったので、父親の阿川弘之さんが相手のところへ行つて壊してきたそうです。相手は誰もが知る銀座の方でした。

急遽、檀さんもクイズを出してくれることになりました。問題は同じくお見合いのネタです。お相手は、政治家、プロ野球選手、お相撲さん、この中の誰でしょう？ 答えは「お相撲さん」でした。

3択なので正解者はいましたが、でも一番少なく15人ほど。阿川さんのサン本を無事贈呈することができます。その後の食事の席で、私と阿川さんは檀さんに相手の名前を質問したんですね。が、最後まで教えてくれませんでした。檀さんは本当に口が固い方です。阿川さんは自分のこともアッケラカンと話してくれるますし、知りたいことを何でもストレートに質問してくる方なので、檀さんから名前を聞き出すことにきつと成功していると思います。また、私は阿川さんの弟さんとも懇意にしていました。関係で「ぱしふいくびいなす」での講演会にも出演していただき、500名のお客様を笑いに包んでいただいたこともあります。

阿川さんはサイン本を30冊ぐらいクイズの景品として提供してくれました。彼女が書く本は恋愛もの、特にご自分の見合い経験を生かしたものが多くあります。その時の会員向け船上講演会では、ご自身のお見合い回数についてクイズを出題されました。答えは「48回」。さすがの多さに、誰も当てること

日本でのクルーズ略史

2004年
2014年

「ダイヤモンド・プリンセス」处女航海
「ダイヤモンド・プリンセス」大規模改修
で展望浴場、寿司バーなど新設。日本発

前半、独身という共通点が多く、プライベートの親交も深い2人。1999年（平成11年）には共著「ああ言えばこう食う」が講談社エッセイ賞を受賞しています。この2人のクルーズ旅行の体験レポート記事は面白くなる、と出版社は思ったのでしょうか。

「旅」は、日本の旅行情報誌として最古の歴史を持つ雑誌です。1924年（大正13年）に日本旅行文化協会から創刊された後、1943年（昭和18年）に休刊。終戦の翌年に日本交通公社で復刊され、2004年からは新潮社で刊行されることになりました。この雑誌は、俳優や作家による紀行文が多くの掲載されているのが特徴です。